



本年度、2610地区ローターアクト代表を務めております、金沢ローターアクト所属の大野正和と申します。私がRACに入会して3年半。入会后、初年度は会計、次年度は会長を務め、その際には金沢RAC創立50周年式典の担当もしました。そして本年度、地区RA代表という流れになります。33歳で、1歳7ヶ月の娘がおります。正直、こんなにアクトに時間を使っているのかと思う瞬間もありますが、家族の顔を見ると「よし、やろう」と思える。そんな気持ちで、富山・石川・南砺を盛り上げるべく活動しております。

今日は、7月から11月までの上期活動を皆さまにご報告させていただきます。内容は、①活動の概要、②南砺で行ったニンニク農作業例会、③富木八朔祭礼例会、④アクトの日、⑤三地区合同国内研修、⑥2610・2760地区の地区大会関係、そして⑦今後の展望の7つです。

まず活動概要です。7月19日の「南砺にんにく農作業例会」は急な日程だったこともあり4名の参加。富山国際大学、南砺、金沢、金沢東から1名ずつの参加でした。猛暑の35度超えの中、JAさんの倉庫で、にんにくの皮むきや選別をお手伝いしました。普段口にしていない作物が、どのような工程を経て市場に出ていくのかを現場で学ぶことができ、本当に貴重な経験でした。この活動は毎年7月の恒例行事として定着させたいと思っています。少し制度面のお話をすると、RAは「ロータリーの青少年奉仕プログラム」から外れ、いまは「兄弟クラブ」という位置づけです。しかし実態はまだまだ自立できておらず、活動資金もRCの支援に頼っているのが現状です。RIからは「自立を目指し、クラウドファンディングや独自の財源をつくるように」という方針も出ています。そこで、にんにく作業の謝礼を活動資金にするなど、新しい資金基盤づくりの第一歩にできればと思っています。

続いて、8月23～24日の富木八朔祭礼例会。参加者は21名で、2580（東京北部）、2590（横浜・川崎）、2770（埼玉）、2820（茨城）、そして当地区の計5地区が協力しました。地震の影響で担ぎ手が不足しているという依頼を受けての参加です。キリコや神輿を担いでとにかく重い。肩はパンパンに腫れるし神社へ突進して祈願する…。体力勝負の祭りですが、地域の方々との一体感が生まれ、復興への思いを共有できたと感じました。

次に「アクトの日」。アクト＝9月10日の語呂合わせから、その日に近い土日で開催しています。今年度は9月7日、ツエーゲン金沢さんと共同で行い、参加者は35名。2640（大阪南部）、2660（大阪北部）、2750（東京南部）、2790（千葉）と当地区の5地区合同でした。活動内容は、能登地震の募金活動、輪投げブース、聴覚障害体験としてのウォーキングフットボール、そして試合運営ボランティアなど、多岐にわたりました。地方ならではのプロスポーツクラブとの連携は、首都圏にはない価値があり、友好地区の方々に石川県を訪れてもらうきっかけにもなると考えています。ツエーゲンさんには昨年度からずっと協力いただいております。来年度以降もこの連携を続けたいと思っています。



「アクトの日」
活動内容は、能登地震の募金活動、輪投げブース、聴覚障害体験としてのウォーキングフットボールそして試合運営ボランティア。
★成果
地元のプロサッカーチームと連携し、地域貢献イベントの差別化を実現。サポーターとの交流や、友好地区メンバーへのピッチ上での体験提供等、多角的な活動を展開しました。

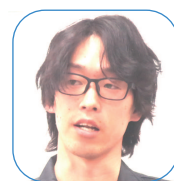
さらに、10月11～13日の「三地区合同国内研修」。2610（石川・富山）、2590（横浜・川崎）、2760（愛知）の3地区で70名以上が参加し、ロータリアンも合わせると80名規模の大きな活動となりました。テーマは「エンパワーメント＝力を与える」。アクトの活動を通して、誰かの背中を押せる存在になってほしいという思いを込めた研修です。1日目は青少年自然の家で宿泊しながら、昨年度直前代表の和田さんから「効果的な奉仕活動のデザイン」について講演を聞き、その後グループワークを行いました。小山ガバナールと愛知の鈴木ガバナールにも参加いただきました。

2日目は「能登復興ラボベース」での復興ボランティア。邸宅の清掃、稲刈り、森づくりなど、災害の爪痕が残る現場で、奉仕の意義を強く感じる活動になりました。

3日目は金沢観光。東茶屋街、近江町市場、忍者寺を9班に分かれて回り、3日間を振り返りながら地区の絆を越えたつながりを深めました。

また、2760地区（愛知）の地区大会では、今回の国内研修でのご縁から、能登復興の募金ブースを設置していただきました。集まった募金は267,984円。心から感謝しています。以上をまとめると、今年度上期の主要6活動で延べ142名の参加、9地区との連携、そして大きな募金支援をいただきました。今後は、①能登復興の継続、②地域ニーズに合わせた活動、③友好地区とのさらなる協働、④恒例例会の確立、この4点を軸に進めてまいります。「日本一汗をかく地区」を掲げ、社会に貢献し続けたいと思っています。最後にご案内です。来年3月28日、金沢ニューグランドホテルにてローターアクト年次大会を開催します。目標150名。ご都合が合わない方も、ぜひ「登録」という形で気持ちを寄せていただければ幸いです。何卒よろしくお願い致します。本日はご清聴有難うございました。

【南砺ローターアクト代表 中田悠貴君】



南砺クラブは現在会員1名でのスタートですが、地区の復興ボランティアには精力的に参加しています。今年度の南砺独自の発信活動が、先ほどの「にんにく農作業例会」です。僕自身、以前JAに勤めていた縁から農家とのつながりがあり、高齢化や繁忙期の人手不足を解消するためにアクトへ協力を依頼したのが始まりです。RAは青少年奉仕プログラムから外れ、現在はRCと同じ立場にあるにもかかわらず、実態として自立しきれていない。そのため、こうした農作業協力の謝礼をクラブの資金にするなど、活動基盤を整える必要があります。

昨年からは、国内のボランティア募集サイト「アクティブ」に、南砺・小松・金沢・金沢東の社会人基盤4クラブで会員募集や能登復興ボランティアの案内を載せています。南砺クラブにも先日、富山市在住の女性から応募があり、お会いしてアクトの説明をしました。サイト経由ということもあり、非常にボランティア意欲が高く、まずは地区の活動に参加してもらって、長く続けてもらえたらと思っています。

さらに、昨年度末に富山国際大学RACが発足し、その会長が南砺市出身の女性で、とても積極的に活動に参加してくれています。就職後は県外に出ると聞いてはいますが、南砺クラブの「受け皿」として、社会人になってもアクトを続けてもらえないかと考えています。なお、砺波のRACは2年前に休止となり、富山県内で社会人が入れるクラブは現在南砺RACだけです。地区としても「富山の最後の砦」なので、地元の若い方をご紹介できるとありがたいです。

そして今日一番お伝えしたかったのが、来年3月28日（土）に金沢ニューグランドホテルで行われる地区ローターアクト年次大会です。今年、南砺ローターアクトクラブは50周年を迎えます。私は40周年の時から10年いますので、節目として何か形を残したいと思い、年次大会の記念事業を南砺の周年と合わせて企画しました。講師にはZIP出演の池田航さんをお招きすることが決定しています。富山の食や若者の勢いなどをテーマに話していただく予定で、懇親会まで参加して頂けます。年代も近く、地区の20～30代前半のメンバーと交流する良い機会にもなると思います。

皆さんには、当日参加はもちろん、来られない方も“周年記念の応援”として登録していただけたら嬉しいです。参加と登録のみで料金も変えますし、応援しやすい価格設定にします。詳細が決まり次第、すぐに案内をお送りしますので、ぜひご協力ください。3月28日（土）のローターアクト年次大会、どうか予定を空けておいてください。

（例会担当 水口秀治RA委員長）

（今回の会報担当：藤井一哉／AIによる要約）